

# 健康通信

## 術中迅速診断

病理診断科 部長医師

栗原 恭子



臨床検査技師による標本作製の様子

最近マスコミではがんのオーダーメイド型医療が話題になります。病理診断もいざそれに関わっていくと思えますが、当院のような市中病院の病理診断科では、仕事の中心は、迅速に適切な病理診断を行い、臨床医とともに患者さんの診療に貢献することであり、今後も変わらないだろうと考えています。今回取り上げた話題は、がんゲノム医療の時代になっても、必要な業務と思っています。

手術を受けられた、あるいは、これから受けられる予定の方の中には、事前に主治医から、手術中に「病理に検

体を出します」と言われた方もいらっしゃるかと思いますが。術中迅速診断は、①予定していた術式が変更になりうる場合、②診断に必要な分量の組織が採れたか、または適切な組織が採れたか確認したい場合、③切除が十分になされ、腫瘍がないことを確認したい場合、④患者さんや家族に早く説明したい時、⑤術中に特定の薬剤を使用するために、その薬剤が使用できる病変であるかを確認したい場合などに行われます。

患者さんの体から採取された組織は、乾燥しないようにして手術室から

病理検査室に下ろされ、大きな組織片の場合は、2cm四方程度の大きさにして、細胞診断用にスライドガラスに押しつけたのち、超低温冷凍装置で一気に入凍結されます。熟練技師によって作製された標本を、病理医が顕微鏡で観察したのち、術者に報告します。組織が提出されて20分程度で手術室に報告が行くようにしています。脂肪が付いている組織では、見やすい標本を作るために脂肪をとり除く操作が必要になります。大きな組織片の場合は、診断ができる部位を決めたりするためにもう少し時間がかかります。

迅速標本では、すだれ状の裂隙や、穴が見られることがよくあり、細胞の核や細胞質がきれいに見えないことがあります。通常の診断時に見ている標本とは勝手が違います。細胞診スリナーの見た細胞診のスライドガラスに張り付いた細胞を参考にしたり、術者に肉眼所見、採取部位を確認したりすることもあります。わかる範囲内のことだけを術者に伝えます。確信できないことを伝えて、過度に切除されることや、予定されていた手術が中止になるなどの不利益を患者さんが被ることを避けるためです。慎重に診断しても最終的に診断が違う場合もありま

問合先 市民病院 (☎76・4131)

す。一般的に3%程度の違いは許容範囲とされており、当院でもその範囲に留まっています。そのような症例については、その都度内部で検討し、今後の症例に生かすようにしています。

### information

## お知らせ

### 市民病院臨時職員募集

#### ◆看護補助業務

勤務開始日 7月2日(月)

勤務 原則として週5日午前8時30分～午後5時(土・日、祝日、年末年始含む)

#### 対象

- ①ホームヘルパー2級(介護職員初任者研修) 取得者
- ②経験・資格不問(看護助手や介護業務経験のある方歓迎)

#### 人員

5人程度

#### 時給

- ①1050円(土・日、祝日、年末年始は1100円)
- ②960円(土・日、祝日、年末年始は1000円)

#### 申込み

5月31日(木)(必着)までに、履歴書(写真貼付)、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課(〒4855-8520住所不要)

※後日面接予定

